

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	在宅に近い生活で、入居者、家族、職員の「日々の時間の流れを大切に、いきいき元気ある暮らしを育む」が、できるよう、運営理念にかかげ、常に目につく場所に掲示している。	面会時間の制限はなく、家族が気楽に立ち寄れるようにしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員は、日常生活が自分の力でできることが「元気ある暮らし」の理念の共有化としている。入居者個々のADL能力や、やりがいを把握し、過度な負担なく活動できるよう、日々取り組んでいる。	生活リハビリを中心に、入居者個々に応じた家事活動や、日常生活動作に取り組んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居者はグループホームに入居することにより、隔離された気持ちにならないよう、家族に協力を得ている。地域の催し物に参加したり、外出することにより、入居者には地域住民の一員としての安心感と家族や地域には、認知症は病気で個々に応じた援助があれば、本人らしい暮らしができることを理解してもらえよう取り組んでいる。	町内会の盆踊り、地域フェスタ等、地域の催し物に参加している。2か月に1回の運営推進会議で、日々の活動報告や、民生委員等から、地域の催し物等の情報を得ている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関周りに複数の花を植え、話題作りができるようにしている。買物はできるだけ地域の店を利用している。	玄関周りの花は、季節に応じ植え替え、絶やさないようにしている。本、煙草、食材等を購入している。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に所属している。自治会、民生委員会からの行事の誘い、広報紙掲載の催物への参加を実施している。	まわってきた回覧板を入居者と一緒に次宅へまわしている。町内会の盆踊り、地域フェスタ、市の敬老会等に参加している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護保険事業として、羽曳野市が市内の7グループホームと家族介護者教室を地域で実施。すみれもそのグループに所属している。		家族介護者教室を1年間で4回で計画。うち、2回は単独で実施。1回は合同で実施。あと1回は2月24日（火）に予定している。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義は理解し、前回の評価を活かし具体的な改善を実施しているが、立地条件上、改善できない所もある。		月に1回全体会議、勉強会、フロアーミーティングや、毎日の申し送りで共通の理解と納得のもと、改善に取り組んでいる。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の活動報告や、評価への取り組み等を報告。そこでの助言や改善点は検討し、可能な限りサービスに活かしている。		町内会の盆踊り、地域フェスタ、市の敬老会等へ参加している。運営推進会議の報告は、職員の全体会議で実施し、課題は検討し、可能な限り、サービスに活かしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	羽曳野市では、管理者と計画作成担当者を中心とした、グループホーム部会があり、すみれも参加している。		月1回のグループホーム部会では、困難ケースや、介護計画書の記載方法など、各事業者が意見交換を行い、サービスの質の向上や、職員交流に取り組んでいる。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を受講し、研修報告書を提出している。	○	研修は全体会議で伝達している。現在活用している入居者はいないが、今後は必要とすることも考えられる。その時は再度制度の理解を学ぶ必要がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修を受講し、研修報告書を提出している。		研修は全体会議で伝達している。身体的虐待はすみれではないが、言葉が虐待となっていないか定期的に見直し、防止に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約にあたっては、重要事項を書面にて説明し、理解、納得の上、契約を書面にてとりかわす。利用者の都合による解約は2か月前に口頭で連絡をもらっている。死去はその限りではない。	○ 契約の前に重要事項説明書を家族及び本人（本人が無理な時は了解の上家族のみ）の前で口頭で理解、納得を得るまで説明する。同意の上、契約書をもって契約をとりかわしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見、不満、苦情は、家族面会時や月一回の介護相談員来所時、あるいは日々のケアの中で職員に表せている。	○ 言語表出できる入居者の意見、不満、苦情は拾い集めやすいが、重度の入居者は難しい。職員が日々のケアの中で気づく努力を今後もより一層していく必要がある。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回請求書、立替金の報告書、すみれ便りを個々に家族に郵送。又、年4回ホーム全体のすみれ便りも送っている。家族面会時に個々の入居者の報告をしている。	○ 月1回のすみれ便りは、個々の入居者の近況写真を載せている。A4サイズで毎月楽しみにし、綴じているという家族からの報告がある。個々の入居者の具体的な報告や、物品購入等の依頼は、管理者から家族へ直接行っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1ヶ月に1回の介護相談員来所時、2ヶ月に1回の運営推進会議参加時、1年に1回の家族会、都度の面会時、家族家族からの希望時を意見表出の場に行っている。ホーム内に意見箱を設置している。	○ 介護相談員の来所は、月1回のすみれ便りで知らせているが、平成20年12月に交代したばかりで馴染みが少なく、すみれでの家族の相談はみられない。回を増すことにより、交流を深めていきたい。意見箱の設置は、活用がない為、その必要性を検討する必要がある。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議、フロアーミーティングや毎日の申し送り時を職員の意見や提案を聞く場としている。	○ 職員の意見、提案は、全職員で検討し、実施。不都合が生じた時は、再検討を行い、共有化し、納得、理解をしていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況の変化等の対応は、日勤帯は管理者、主任等でまず行い、困難であれば職員調整を行っている。夜勤帯は夜勤待機者が対応する。	○ グループホームは日々重度化しており、通常のシフトでは対応困難な場合が多々発生している。すみれは入居者の終の住処として、日々、柔軟な対応を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職を最小限に抑える為に、働きやすくやりがいのある職場作りに心がけている。やむをえず離職する場合は、その補てんと引き継ぎを実施し、入居者の日常生活への支障が最小限となるよう配慮している。</p>	<p>働きやすくやりがいのある職場として、コミュニケーションの場としての数回の旅行や、食事会を開催している。モチベーション向上の為に、研修の機会を多く平等にしている。引き継ぎ時は、ペアを組み実施している。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修をはじめ、府、市、職能団体等主催の研修への参加を実施し、職員のモチベーションの向上に努めている。</p>	<p>月1回の内部研修は、外部講師や内部講師で実施。自身が講師となることもある。都度の外部研修は全ての職員が平等にその機会があり、研修報告書の提出義務と内容により、伝達する義務がある為、モチベーションの向上の場となっている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム部会に参加している。ヘルパー2級や学生等の実習生を受け入れている。</p>	<p>グループホーム部会では、サービスの質の検討や職員交流に取り組んでいる。実習生の受け入れは、職員が初心にかえり、サービスの質の見直しと、人を教えることの難しさを学ぶいい機会となっている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日々の勤務においては、休憩時間を保障し、リフレッシュをおこなう。コミュニケーションの場として、数回の旅行や食事会を開催し、円滑な人間関係をはかっている。会議では全職員が輪に入り自由に発言できる雰囲気作りを心がけている。</p>	<p>休憩時間は職場を離れたり、設置されたマッサージ器を活用する等、自由な過ごし方をしている。一度に全職員の参加は困難なので、数回に分け行い、年度別に参加メンバーをかえている。日頃の疑問や意見は、全職員が会議の場で表出できるように事前に議案書を配布している。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>入居者本位のケアを常に念頭に、いかにケアすべきかを、日々、あるいは時間により変わる入居者への職員の介護方法を観察し、努力やスキルアップについては評価を口頭で行っている。職員からの提案、意見は全て汲み取り職員間で検討し、可能な事は実施している。</p>	<p>キャリアアップとして、個々の職員がすみれで働き何をしたいのか、3年後の自分、5年後の自分を考え、それに向かって何をすべきなのか、意見交換の場がもてる取り組みをしていきたいと考えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、施設見学、事前面接を随時に実施している。認知症を患っている本人は、日常生活上の困難さを困難と自覚することが難しく、在宅での生活を望んでいる。普段の生活のひとつひとつを本人と確認し、在宅生活とグループホームの生活を比較し、本人が理解、納得できるよう、ゆっくりとわかりやすい言葉で本人のプライドを大切に説明を行う。	○印 現実の相談や、施設見学は家族である。本人は何となく、納得あるいはレベル的には納得困難なまま、どういう所か理解できずに入居に至っている。認知症という病気の症状から事前に本人からよく聴く機会はもちにくい。入居後、生活を共にしながら、言語ばかりではなく、しぐさ、身振り、顔の表情態度から、本人の不安な事、求めていること等に気づき、受けとめ個々にあったケアに取り組んでいる。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、施設見学、事前面接、随時に実施している。在宅生活の様子を傾聴し、家族の困っていること、不安な事、求めていることを受け止める。入居が適切な場合は、すみれの理念、取り組み等を説明し、選択肢の1つとして提示している。	○印 施設で安全に暮らしてほしい家族と、在宅で暮らしたい本人の気持ちの差は大きい。現実を客観的にみつめ、施設入所が本人、家族にとってよい選択と判断される場合は、家族に罪悪感が生じないよう配慮している。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談、問い合わせ時、現状の日常生活を把握し、在宅生活が可能なのか、施設入所なのかを見極め、適切であると勘案されるサービスの種類とその利用方法を説明している。	○印 介護保険の申請方法、利用にあたってのケアマネジャーの必要性等、具体的な説明と対応に努めている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時はできるだけ在宅に近い環境作りを考慮し、馴染みの家具等を居室に配置する。入居当初の不安軽減の為、個別対応の時間を増し、徐々に馴染んでいくよう支援している。	○印 居室のベット、照明器具、カーテン、エアコンはすみれで用意しているが、他は本人の使い慣れた物や、気に入ったものを持ち込んでもらう。まずは本人の生活リズムを様観し、徐々にすみれに馴染んでもらうよう支援する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者個々のADL能力や、やりがいを把握し、過度な負担なく活動できるよう、日々取り組んでいる。会話の機会を少しでも多く心がけている。	入居者個々に応じた家事活動を職員と共に行っている。その中で、食材の切り方や味付け洗濯の量み方等、入居者から教えてもらうことも多い。TVを見ながら世間話や日常会話をしながら、喜怒哀楽を共にしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者は家族を中心に、職員や医療従事者等チームケアで支えることを基本としている。入居者の受診や衣替え等は家族の判断で実施され、職員は援助者の立場としている。	入居者の体調変化時は家族に連絡し、場合によっては来訪してもらい、本人の体調の説明を行っている。通院を要する時は、入居者は家族と共に受診。場合により職員が同席する。面会時間の制限はなく気軽に立ち寄れる雰囲気作りを行い、日常生活場面で喜怒哀楽を共有している。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	すみれでの日常生活場面や、行事への参加の機会をもち、本人、家族の交流の場としている。	除々に進行していく認知症の症状を本人、家族、職員が共有し、本人にあったケアを試行錯誤しながら行っている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限はなく、気軽に立ち寄れる雰囲気作りをしている。本人から電話をしたい希望があれば家族に確認し、実施する。買物は本人馴染みのスーパーで実施する。	馴染みの人が思い立った時に来訪し、本人に差し入れや、馴染みの呼名で声をかけてくれる。馴染みのスーパーでの買物は、以前によくきていたと本人、笑顔となる。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングでの席は、入居者個々の関係を把握し、よい雰囲気での会話や気遣いなく過ごせるよう考慮している。	入居者の身心状況の変化に応じて、不定期に席替えを実施している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	本人との入居契約が終了しても、家族との交流は現在も続いている。	使い捨て用の古着を持ってきてくれている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の思い、意向は、言語伝達可能者は会話で、困難者はしぐさ、身振り、顔の表情、態度から気づき、勘案している。家族面会時に情報収集している。	○ 重度の入居者の思いや意向は勘案で、真にそうであるのか職員が日々のケアの中で気づく努力を今後もより一層していく必要がある。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホームで、本人らしい生活を送っていく為に、入所前の面接時や、入所後、本人や家族と交流を深めていく中で、聞き取り、日々のケアで活かしている。	○ 奉公に出、1日中働いていた入居者は家事活動中はいきいきしている。毎日、過度な負担にならないよう実施している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	夜勤者から早出、早出から日勤、日勤から夕勤者へと個々の利用者の円滑な申し送りによる把握と、本人の顔色、表情、動作等による把握を実施、記録紙による把握も行っている。	○ 記録紙は、業務日誌、介護チェック表、排泄記録表等があり、閲覧して把握している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議やケース検討会を開催し、課題やケアのあり方に応じて、家族、職員、医師等が参加している。そこでの話し合いを反映した介護計画を作成している。	○ 利用者本位の介護計画の立案に努めているが、本人が認知症の症状の為、話し合いに参加することはない。日常のケアの中で、本人の要望を見出し、反映していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じての見直しと、更新時、本人の急な変化時に家族や職員、関係者と話し合いをもち、新たな計画を作成している。	○ 利用者本位の介護計画の立案に努めているが、本人が認知症の症状の為、話し合いに参加することはない。日常のケアの中で、本人の要望を見出し、反映していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子は、業務日誌と個人ケースに記録し、ファイリングしている。本人の体調変化や気づきは記入し、ケアの変更の検討を行う。変更内容は介護計画の見直しに活かされケアに反映される。	○	利用者本位の介護計画の立案に努めているが、本人が認知症の症状の為、話し合いに参加することはない。日常のケアの中で、本人の要望を見出し、反映していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	物品購入や急な受診など家族の対応困難時は、柔軟に支援している。家族からの入居者以外の相談についても対応している。		家族の希望により、福祉用具の購入や、外出時の介護タクシーへの連絡等も行っている。相談業務は随時実施している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアを募集、受け入れ、活動してもらっている。民生委員からの行事の誘い、ボランティアの紹介、広報紙掲載の催物への参加を実施している。		施設内行事では、ボランティアによる余興が行われ、今後も実施していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現時点では活用支援していない		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現時点では活用支援していない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望のかかりつけ医や主治医が定期的に往診し、適切な医療を受けている。		往診時は職員が日頃の本人の状態を報告し、必要に応じ、薬の見直しを医師にしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的に心療内科医の往診があり、職員が相談できる。		1か月に一度の往診時、日頃の本人の状態を報告している。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在、具体的な協働はないが、すみれより徒歩5分位の所に訪問看護ステーションがある。H20年12月～准看護師が夜勤専門で入職した。		訪問看護ステーションには、今後の緊急時等の依頼をふまえ、あいさつには伺っている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	現在は実施されていないが、真に必要な医療処置が終われば、すみれはいつでも退院受け入れ可能である事や、入院が長引くことによる本人へのリスクを挙げ、急性期が過ぎ次第、関係者とサービス担当者会議を開く。		入院以外に、入居者の治療方法の選択肢はないのか、入院前の話し合いをもっている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者がその状態と勘案された時、家族、医師、職員と終末期のありかたについての意志確認を行い、方針を共有している。	○	本人が話し合いに参加できる状態ではないので、日頃より本人の要望を見出し、反映していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	すみれとしては、延命治療はできないことを家族に理解、納得してもらった上で、見守りを中心にしたケアの中で、本人らしい終末を迎えられるよう支援する。		家族、主治医との連携を密にし、本人の変化に備えていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前の話し合いを充分にもち、理解、納得してもらおう。入居時はできるだけ在宅に近い環境作りを考慮し、馴染みの家具等を居室に配置する。入居当初の不安軽減の為、個別対応の時間を増し、徐々に馴染んでいくよう支援している。		居室のベット、照明器具、カーテン、エアコンはすみれで用意しているが、他は本人の使い慣れた物や、気に入ったものを持ち込んでもらう。まずは本人の生活リズムを様観し、徐々にすみれに馴染んでもらうよう支援する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者は人生の先輩であるという敬愛の気持ちを常に持ち、支援する。個々の職員自身がすみれのサービスの質であるという気持ちを持ち、接する。個人情報全ての取り扱いは、原則、施設内のみとし、持ち出しは禁止している。	○	排泄、入浴、更衣は個別対応である。全室個室である。入室はノック、声かけを必ず行っている。個人ケースファイルは戸つきの棚に収納している。職員の声かけが、時として粗雑になってしまうことがある為、十分な配慮の徹底に取り組んでいきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活場面で、可能な限り選択できる機会を提供している。		食事は職員が配膳するのではなく、取りに来てもらい、同じ種類の中から、本人の気に入ったものを選んでもらっている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先でなく、入居者のニーズを優先した行動を職員は実施している。		入居者の排泄希望は、都度優先し、ケアを実施している。入居者からの声かけや、身振り、表情は見逃すことなく状況にあった対応を心がけている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	モーニング時の整容は全入居者に実施。2か月に一度の訪問理容で整髪を実施。外出時は、特に服装に配慮している。		有償ボランティアの訪問理容は、本人より希望のヘアスタイルにしてもらっている。外出時は、職員の援助により化粧をする入居者もいる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自由献立の日は、入居者の希望を聞く。調理の下ごしらえから参加、配膳、片づけ等能力に応じて対応している。	介護度5の入居者が体調良好時は、玉ねぎの皮むきを指でできる。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好きなものを家族の差し入れや買い物により調達し、支援している。	現在、喫煙の入居者はいないが、すみれは禁煙である。アルコールは日常的に飲むことはしていない。行事の時のみ、本人の体調に合わせて提供している。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄状態や能力の把握をし、失敗を減らしている。おむつの使用は個々に応じた活用を実施。おむつカバー使用者は布オシメと尿パットを使用し、ムレの軽減をはかっている。	排泄チェック表に記入し、尿量の少ない便秘気味の時は、水分量を増す等、状況に応じた対応を実施。排泄チェックの現場責任者を主任とし、見落としのないよう心がけている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者個々の体調と気分により入浴を決定。個別入浴を本人の希望と体調にあわせた時間で実施している。	入浴拒否の入居者には、再度の声かけや、入浴してもよい雰囲気作りを行い、無理な実施はしていない。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の体調に応じ、午睡を取り入れたり、夜間の入床時間を変えている。枕の高さ、照明などの調整も個々にあわせて、安心した休息ができるよう努めている。	夜間の睡眠が充分とれるよう、日中の活性化をはかっている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	理念でもある「生き生き元気ある暮らし」の為に、個々の生活歴を本人や家族から情報を収集し、可能な事は日常生活の中で提供していく。	すみれでの居場所作りと役割の確立が、本人の安心感と生きがいになり、居心地の良さになる。終の住処として、すみれ内では本人にあった日常生活上できる家事活動や、好きな事を全職員が見出す努力をし、本人に提供している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は、価値観のわかる入居者にとっては、何よりの安心感、お守りのようなものである為、紛失の可能性をふまえた上で家族に了解を得、所持してもらっている。	○	認知症の進行に伴い、お金の所持可能であった入居者が固執へと移行した際の対応方法に苦慮している。今後の対応を家族も混え検討していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の体調や天候にあわせて、手引き歩行、歩行器、車椅子等で近くの公園や神社へ散歩する。買物等遠距離は車に乗り、外出支援を行っている。		重度化や体力低下に伴い、遠距離や頻回な外出が困難になってきている入居者もいる。個別対応を実施している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別外出支援や、家族も一緒に参加行事も企画実行している。		地域の催物への参加や、家族一緒の日帰り温泉旅行、外食を実施している。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や心身の状況に応じて実施している。		周辺症状発症時の本人の希望は様観している。状況に応じ家族に連絡を行う。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はなく、気楽に立ち寄れる雰囲気作りをしている。		職員は、訪問者に明るく元気よく挨拶を行う。両者が負担にならないお茶の接待をしている。入居者と共に訪問を歓迎する。又、きてもらえるような声かけを行う。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	個々の身体機能に応じたケアを、適切な福祉用具の活用や、技術、介護方法を工夫しながら身体拘束なく実施している。安全確保上止むを得ない場合は、家族への説明を書面をもって行い、同意をもらっている。	○	現在、ベットからの転落防止の為、2名の利用者が片側壁での3本柵を使用。家族に同意を得、実施しているが、3本柵が2本柵になるよう検討していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の心身の状況と建物の立地条件による安全確保の為、不本意であるが施錠している。全職員が鍵を携帯し、いつでも開錠できる体制はとっている。	建物の構造上、玄関口に職員が常駐する部屋がない。玄関先はすぐ道路で交通の便が激しい為、止むを得ず施錠している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間帯は目の行き届きやすい2Fリビングで殆ど入居者が過ごす。時間により居室で過ごす入居者は常に気かけ、定期的に安全確認と声かけを行う。夜間帯は定期の巡回と状況にあわせた安全確認を実施している。	体調不良時や固執の入居者が居室で過ごす時間を把握し、定期的な安全確認と声かけを実施している。昼間帯の訪室はノックと声かけを行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	誤飲や怪我等、危険を防ぐ取り組みを実施している。	薬全般は棚の中、消毒液、シャンプー等は棚の上に設置している。ハサミ、裁縫箱の出し入れは職員が行い、入居者と一緒使用する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	1年に一度緊急時の対応の為の職員全体勉強会を実施している。事故発生時は、状況に応じヒヤリハットの記入や事故報告書を提出、検証し、共有化し、事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハット帳や事故報告書は、発生時に全職員が閲覧し、擬似体験し、事故防止に努めている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	1年に一度応急手当や初期対応の為の職員全体勉強会を実施している。緊急時に備えたフローチャートを作成し、職員のわかりやすい場所に掲示している。	個々の急変時の対応は、関係者と話し合いを持ち決める。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を定期的に行っている。消防署員の指導のもと、消防避難訓練を実施している。	○ 消防避難訓練では、署員指導で、参加者が訓練用の消火器で実践している。地域の人々の協力が得られるよう近隣や町会に働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	認知症は度合いの差はあるが進行する病気であり、それに伴い周辺症状が発症することを個別に家族に説明している。すみれは状況に応じた対応で、本人らしい暮らしの継続をしていく。その為の協力を家族に依頼している。		周辺症状は個々により異なる為、都度の対応策の検討が必要である。本人らしい暮らしの継続を第一に、受け入れ難い家族を支え、共に学びながら検討していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	表情、顔つき、しぐさ等、日頃より気づきの視点で入居者のケアを行っている。異変発見時は、極力冷静に努め、バイタル表のチェックをし、主任、管理者に報告し、情報を共有する。家族、主治医との連携をはかりながら対応している。	○	日頃の気づきの視点は今後も取り組んでいきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作成し、職員全員が効能副作用等把握できる体制をとっている。定期的に全体会議で全入居者の服薬について、報告、検討している。		服薬の現場責任者と医師への窓口を主任とし、往診時日頃の本人の状態を報告。必要に応じ、質問や薬の見直しをしてもらい、全職員に伝達する。代行は管理者としている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の確認は排泄チェック表で実施、排便自立者へは口頭での確認を実施している。排便間隔が長い時は、腹部の暴慢感を触手で確認し、状況により水分補給、牛乳等を摂取してもらう。		日頃より個々の水分摂取量に配慮している。ヨーグルトの摂取や食事にも留意している。散歩や体操、日常生活での動きも取り入れている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを実施している。週に一度訪問歯科衛生士による口腔ケアや入歯のかみ合わせ等を見てもらっている。		嚥下困難な入居者には、毎食後、ガーゼによる口腔清拭を実施している。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は全員、水分量は状況に応じて介護チェック表に記入し、把握している。献立表や残飯量をチェックし栄養バランスや食べやすい食事を把握している。		水分摂取困難時は好みのドリンクを提供している。嚥下困難時はとろみをつける、食材を小さく切る等工夫している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	研修会に参加し、伝達研修を実施。原因、対応策を職員が共有している。インフルエンザの予防接種は、毎年全入居者と職員全員が実施している。		外来者には手指消毒を依頼している。体調不調時の面会は断っている。ノロ対策として、毎日トイレ掃除時、塩素系漂白剤で消毒をしている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、冷蔵庫のメンテナンスを定期的実施している。食材は消費期限を確認し、利用している。食事は調理後、3時間以内には食べ終わっている。		台所は定期的に塩素系漂白剤で消毒をしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	四季折々に玄関の両側に植木や草花を20数個のプランターに植え、話題づくりができるようにしている。靴箱の近くにはソファを置き、くつろげる場所を用意している。		植木や草花の世話は入居者もすることがあり、そんな時は近所の方や通行人との会話がある。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のリビングには入居者とボランティア、職員が協同で作成したパステルカラーや、ぬり絵を飾り、暖かい空間づくりに配慮している。		共用空間の出窓には、観葉植物や花をいけ、季節感を取り入れている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは個々のいすと、複数で利用する机を設置し、本人の居場所としている。入居者の状況にあわせ個別での居場所も設置している。		広い共用空間の横にこじんまりした共用空間があり、周辺症状等発症時には、そこを居場所とすることもある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅生活を基本に、馴染みの家具や生活用品、衣類などを持ち込み、本人が終の住処として居心地良く過ごせるよう配慮している。	○	認知症の進行に伴う居室の環境整備は除々に家族と相談しながら実施し、本人に納得してもらうよう取組んでいきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	便臭、尿臭が滞らないよう換気は常時行う。空気の入替は毎朝行う。温度調節、夏場はクーラーによる足もとの冷えと、冷えすぎないよう配慮する。冬場は暖房と加湿の実施を同時に行い、乾燥しないよう工夫している。リビングに温度計があり、常に気温がわかるようにしている。		空調は常に入居者本位の温度を設定している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況にあわせた環境作りを適切な福祉用具や、住宅改造により、その都度実施し、本人の残存能力を有効活用している。		円背にあわせた背はりが可能な車椅子を活用し、褥瘡を予防している。トイレには壁にファンレストテーブルを設置し、立位時の支え板としている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレの入り口には表札をかけている。夜間、安全に一人でトイレへ行けるよう、非常灯の確認やトイレの電気はつけたままにしている。		トイレの表札は使用中の有無がわかる工夫をしている。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りにはプランターで四季折々の草花を植え、入居者と水やり等をしたり観賞している。3Fのベランダでは、毎日の洗濯物干しや外気浴を実施している。		毎年8月1日はPLの花火を入居者、家族、職員が飲食しながら楽しんでいる。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

単独の1ユニットのグループホームで入居者は9名、職員13名(夜勤専従含)計22名の集団で、建物も民家改修型で、小じんまりと家庭的な雰囲気一杯のすみれです。運営理念「日々の時間の流れを大切に、いきいき元気ある暮らしを育む」は全ての人にあってはまるすばらしい理念だと誇りを持っています。誰もが自宅で過ごすことがあたり前で終の住処と思っていたのに、認知症の為に、あたり前のことができなくなってしまったご入居者、消すことのできないその辛さや悲しみを想い、限られた時間を大切に、様々な人間模様をおりなしながら、共にいきいき元気ある暮らしを育んでいます。